

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 2 回高松市競輪事業検討委員会
開催日時	平成 2 9 年 1 0 月 2 5 日（水） 1 0 時～ 1 1 時 2 0 分
開催場所	高松競輪場研修室
議 題	(1)前回会議における質問に対する回答について (2)施設改修の方向性について (3)その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	石川委員、板谷委員、七條委員、西村委員、矢野委員、米澤委員
傍 聴 者	8 人（定員 1 0 人）
担当課及び連絡先	競輪場事業課庶務係 8 5 1 - 5 0 3 6

会議の経過及び結果

・ 会議の公開について

本日の会議については、個人情報等の非公開となるような事項の審議は想定されないことから、公開とすることとした。

(1) 前回会議における質問に対する回答について

事務局から、資料を基に説明し、委員から意見や質問等を求めた。

(石川委員)

競艇場に比べ、オートレース場や競輪場は廃止の割合が大きいが、何か理由があるのか。

(事務局)

業界全体としての支援体制が異なることが大きな要因と思われる。オートレースについては、オートレース振興会を中心に業界全体でのリーダーシップ発揮とバックアップ体制が整っており、施行者に対する施設の整備やグレードの高いレースの割当てなどの支援を行っている。

一方、競輪については、各々の施行者の努力による部分が大きく、他の施行者の方と連携を深める中で、売上げを伸ばしているのが実情であり、経営が厳しくなっても、自力で経営改善を図っていかなければならないといったところが大きな違いではないか。

(西村委員)

全国の競輪場の中で、成功している競輪場、活気のある競輪場について、また、これからのベンチマーク、目標になるような競輪場について、分かっているものがあれば紹介いただきたい。

(事務局)

売上げや入場者数の上位の競輪場、また、公共交通機関が発達しており、アクセスが便利な競輪場となれば関東・南関東の競輪場になり、例えば、川崎競輪場の場合、数年前から周辺の公園施設と一体的に大規模な改修を行っているほか、立川競輪場においても大規模な改修を行っている。地方においても、ナイター照明の設置を行い、ナイター競輪やミッドナイト競輪の開催により売上げが増加している競輪場もある。

(板谷委員長)

都市部が集客面でも有利ということであるが、川崎競輪場から5キロも離れていない花月園競輪場は大都市の横浜市という比較的収益が見込める場所にあったにも関わらず廃止になったのはなぜか。

(事務局)

花月園競輪場については、民間企業の花月園観光株式会社が所有する施設を借り上げて競輪の開催を行っていたが、この場合、施設の維持管理経費については、企業側の負担になる反面、借上費用が発生する。また、同競輪場については、神奈川県、横浜市、横須賀市の3つの施行者が神奈川県競輪組合を組織して競輪を開催していたが、売上げ低迷により赤字となり廃止に至ったものである。

(板谷委員長)

高松競輪の売上げが増加した要因として、去年は特別競輪の開催が挙げられる。今後の収支見通しに関わってくると思うが、施設の改修を行った競輪場について、グレードの高いレースを割り当ててもらうことは可能か。

(事務局)

施設改修を行ってもグレードの高いレースを割り当ててもらえる訳ではないが、今後ともグレードの高いレースの誘致に努めてまいりたい。

(2)施設改修の方向性について

事務局から、資料を基に説明し、委員から意見や質問等を求めた。

(板谷委員長)

建築物の新耐震基準が制定されたのが昭和56年であれば、中央スタンドは昭和57年竣工なので、耐震基準を満たしているのではないかと。

(事務局)

新耐震基準前の設計に基づき建設を行っているため、基準を満たしていない。

(矢野委員)

施設の中で、耐震基準を満たしている施設はあるか。

(事務局)

選手宿舎とプレスセンターは耐震基準を満たしている。

(七條委員)

改修を行うとした場合、優先順位はどうか。

(事務局)

西スタンドについては、崩壊の危険性が高いという診断を受けているため、早期に対策を講じる必要がある。また、選手がレース時に滞在する場所となる選手管理棟については、昭和32年の竣工で、60年も経過していることから、こちらも早期に対策を講じる必要がある。

(七條委員)

競輪の場合、改修費用を税金で賄う訳にはいかないため、競輪を開催しながら、改修を行っていけば良いと思う。

(石川委員)

選手管理棟と事務所については建替えて、スタンドについては、現状の機能を維持しつつ、耐震補強を行うということによろしいか。

(事務局)

資料については、耐震補強をした場合の費用を記載しているが、これはあくまで予算規模をイメージしていただくためのものであり、耐震補強ありきということではない。現在の入場者数に見合った施設規模からすれば、不要なスタンドは取り壊して更地にするという方法もあるかと思われるので、施設の在り方についても、委員の皆様にも検討をお願いしたい。

(石川委員)

選手管理棟は建替えを行うということだが、例えば北スタンドを撤去して、そこに選手管理棟を建てるということもできるのか。

(事務局)

お見込みのとおり。どのような形が望ましいのか、委員の皆様を検討をお願いしたい。

(板谷委員長)

西スタンドを撤去した場合、6億6千万円余とあるが、耐震補強を行うより費用がかかるのか。

(事務局)

大屋根と2・3階を撤去し、1階は改築して残した場合、6億6千万円余かかるが、全て解体し、更地にした場合はこれより少なくて済む。

(板谷委員長)

西スタンドを更地化した場合の費用はどの程度になるか。北スタンドであれば、西スタンドより規模が小さいので、もっと少なくて済むのか。

(米澤委員)

西スタンドの場合、解体のみであれば、約2億円となる。北スタンドについては、積算していないが、面積が西スタンドの約6割なので、費用についても面積比に応じた額になると思う。

(板谷委員長)

選手管理棟や事務所は別個に設置されているが、例えば、一つの建屋に、1階は選手管理、2階は事務所にするという方法も可能ということか。

(事務局)

お見込みのとおり。資料については、今ある場所に建て替えた場合の費用を記載しているので、施設を統合していくという方法もある。

(米澤委員)

補足をすると、これは建替えの場合なので、一時期、開催できない期間があるなどの点については、全く考慮されていない数字である。工事費についても、概算につき2割から3割の誤差はあると考えていただい

た方が良いと思う。また、中央スタンドについては、ある程度検討したが、この金額で必ずできるかというところまでは、精査できていない。

(板谷委員長)

工事費は増減するかもしれないが、中央スタンドの耐震補強工事費の3億7千万円余については、本場開催を見込んだ数字になっているのか。

(米澤委員)

お見込みのとおり。本場開催を行いながらの工事となるため、期間的には、単純に耐震補強工事を行うよりも期間は長くなる。

(板谷委員長)

震災被害による崩壊等の懸念に対し、全国の競輪場がどのような対策を講じているのか知りたい。現状の施設のまま耐震補強を行った例もあれば、市の施設ということで、市民の参画も含めてプランを策定し、大規模な改修をした例、また、その中間など様々なパターンがあると思う。

(事務局) (資料を配布し説明)

各競輪場において何かしらは対応を行っているという状況にある。熊本については、熊本地震の影響により、施設が甚大な被害を受けたため、本市よりも先に検討会を立ち上げ、競輪事業の方向性について、検討を行っており、近いうちに結論が出る予定である。四国であれば、松山と高知については、すでに全面改修を新築で行っているが、小松島については、本市と同様、耐震補強等を行っていないため、今後の方策について検討を行っているところである。

(矢野委員)

民間所有の施設を借り上げて競輪を開催している施行者があるが、本市においても同様に競輪を開催することは可能か。

(事務局)

実現可能性の問題はあるが、理論上は可能である。

(石川委員)

競輪は公営ギャンブルなので、市民の福祉の増進のために役立つ施設でなければならないこと、かつ、黒字経営でなければならないという2つの障壁があるので、PFIのような民間を活用した手法で競輪の運営

を行う方法もあるのではないかと思う。なお、施設の在り方について、運営しながら少しずつ改修していった方が良いとか、施設が女性や子ども、家族連れで来て楽しい施設であれば良いというのは分かるが、そのためにどういう設計をすべきかといった部分までは専門家でなければ分からないし、決められないと思うが、委員会としてどこまで踏み込んで議論を行っていくのか。

(板谷委員長)

この委員会は1年後に市に対して、高松競輪の存続・廃止を含めて、在り方を答申するということが使命であり、廃止した場合にも当然、費用がかかるので、費用に関して、きちんとした数字を持っておかなければならない。また、今後検討を進めていく上で、市民の声は、委員会としても、是が非でも聞かなければならないと思う。全国の競輪場の中には、震災で実際に崩壊もしている競輪場もあるので、耐震問題は避けて通れない課題であり、それに対して、委員会はコンセプトを提案する機関である。市民の声や専門家の立場から、それぞれ意見集約を行った上で、こういうものがあるのではないかとということを提案したい。それは、複数提案になるのかもしれないし、どういう期間でやるのかなど、形態も含めて、決めきれるものではないが、その在り方の代替案を示すということが使命ではないかと思う。存続・廃止をどうするかという中で、ある程度、数字が出てこなければいけないし、ある程度、全国の競輪場の在り方というのを見定めていかないといけないと思う。

次回に向けては、市民の声をどう吸い上げるかということや、全国の改修状況についても、費用負担を含めて、精査していく必要があると思う。資金が無尽蔵にあれば、存続ありきで、綺麗にしたいと思うだろうし、逆に市民の声が、公営ギャンブルは如何なものかという人が多ければ、廃止という両極があると思うので、そこは丁寧に調べていく必要があると思う。今後は、全国の改修状況について、どういう内容かも見ていかないといけないが、それは存続ありきという話ではなく、在り方の一つのベースとして参考にしていただければと思う。

(西村委員)

施設の改修後の経営状況や来場者がどうなったかの経過を調査していただきたい。本市は「気持ち高まる、高松。」というキャッチコピーを掲げているが、競輪場がまさに気持ち高まる場であるためには、改修を行うとしても、その後どうなっていくのかを見据えて行わないと、ただ改修を行っただけに終わってしまったのでは、選手にとっても、市民にとっても将来に繋がらないと思う。立川や川崎、静岡のようにうまく運営ができているところは、どこの点が素晴らしいのかということ、

我々は知る必要があるし、高松の弱いところがどこで、強みがどこでというSWOT分析をしながら、議論を行っていくことが、今後、可能性を広げる部分でもあるし、建設的な意見がもっと出てくると思うので、調査をお願いしたい。

(矢野委員)

現状維持ありきの改修ではなく、集客増を図るため、場内の施設の配置を変えるとか、新たな公共施設が必要であれば、競輪場との兼用施設にするといった方法もあると思う。また、食堂についても、京王閣だと、お店が10店舗くらいあり、様々なメニューを提供しているが、高松において、それほど需要が見込めないのであれば、身の丈に合った規模に見直す必要がある。

(板谷委員長)

これまでの意見をまとめると、いくつか大きな選択肢があり、一つ目は、廃止がある。廃止になった競輪場がその後、どうなっているのか。撤去費用の問題等で、撤去できない場合であったり、観音寺のように場外車券売場として存続している場合もあるが、廃止後、集客や収支がどうなったか。二つ目は、改修がある。それは、耐震補強等の必要なことだけを行った場合。三つ目は、公園の中に取り込んだり、市の中の施設として、何らかのリニューアルを行ったケースや兼用施設として整備を行ったケースなどがあると思う。そのあたりを含めて、客観的にこの委員会で示せるような事例を、それぞれがどうなっているか調べていただきたい。

ここで特に大事になってくるのは収支だと思う。情報収集に時間を要するかもしれないが、客観的にそれぞれ、廃止したケース、補強だけを行ったケース、リニューアルしたケース等について、現状の在り様や収支等を調べていただくと、我々の議論のお手本になるかもしれない。ただ、これだというケースがあっても、状況は変わるので、判断しづらい部分はある。東京オリンピックを契機にフォローの風が吹くかもしれないし、逆に地域にとって厳しい時を迎えるかもしれないが、厳しい見方をしても採算が取れるものにしていければ良いと思う。プランの大きな方向性の中には、もっとわくわくするような地域となるためにどうすべきかといった内容も含まれているが、委員会として、そこまでの議論は厳しいかもしれない。委員会として、まずは大筋のものを調べて、ここで詳らかにして、それに対する費用の積算や実現の可能性、また、建築的な客観性も求めていくこととしたい。次回に向けて、どこまでできるか分からないが、そういった形で議論の準備をしていきたいと思う。

(石川委員)

指定管理やPFIなど、競輪場の運営手法についても、調べていただきたい。収支計画、運営体制、理論的に実現可能かどうかという部分も含めて。

(5)その他

・役割分担について（板谷委員長より各委員に打診）

矢野委員：財政の在り方、リニューアル時の資金繰り、他の再生事例

石川委員：お金の使い方、公平性、市民へのリターン、収支分析

西村委員：市のシンボリックとして競輪場がどうあるべきか

万野委員：地域における競輪場の存在価値

七條委員：競輪選手を含めて、スポーツの観点からの競輪

米澤委員：施設の耐震補強のほか、様々なパターンを想定した試算

・「競輪来場者」に対するアンケート調査「平成27年度競輪定点観測調査」（公益財団法人JKA発行）を委員に配布

・市民アンケートについて、次回事務局案を基に協議

(閉会)

・閉会后、施設見学